

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立川越女子高等学校)

目指す学校像	「学力の向上」と「人格の陶冶」を柱に組織的教育活動を展開して進学実績の向上を図るとともに、生徒が主体的に学ぶ「質の高い授業」の創造に全力で取り組む学校
--------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえ評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	24名
	事務局(教職員)	10名

重点目標	1 《学力の向上》生徒の学習意欲(進路意識)を喚起し、自学自習力の定着に努め、学力の向上を図る。 2 《人格の陶冶》「品格のある、志の高い生徒」「自主・自律の精神に満ちた自立した生徒」を育成する。 3 《開かれた学校づくり》関係機関との連携を更に深め、学校情報の積極的な発信に努める。
------	--

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				年 度 評 価 (1 月 2 5 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	■現状 ・2学期制、65分授業、土曜授業の実施や行事等の調整を行い授業時間の確保を行っている。 ・国や県の指定事業等を有効活用している。 ・授業相互参観等により質の高い、ハイレベルな授業が展開されている。 ・進路指導部、学年等を中心とした様々な取組により進路意識の向上に努めている。 ■課題 ・引き続き、高みを目指す進路意識の啓発を行う必要がある。 ・学習意欲の向上や志の育成のため、読書活動を推進する必要がある。 ・SSH第3期指定を受け、事業を効果的に活用し、今後も学校全体で事業を実施、推進する必要がある。	1 学力向上・授業改善の取組を組織的・継続的に推進する。	①教員の相互授業研究、生徒による授業評価、授業公開の実施により授業改善に努める。 ②アクティブ・ラーニング等を活用し、主体的に学習する態度を育成する。 ③読書活動や新聞を活用した学習活動を推進し学力の向上を図る。	①生徒による授業アンケートで「授業の充実感」の結果が昨年度より増加したか。 ②生徒による授業アンケートで「態度・姿勢」の結果が昨年度より増加したか。 ③図書館利用者数・貸出図書数が昨年度より増加したか。	■質の高い授業が展開され、授業改善の組織的、継続的な取り組みが実現。 ①授業アンケートで「授業の充実感」の結果が3.2～3.4であった。(昨年度3.3～3.4) ②授業アンケートで「態度・姿勢」の結果が3.3～3.4であった。(昨年度3.3～3.4) ③貸出図書数が7300冊を超えた。(昨年度約7000冊)	A	■次年度への課題 ・授業改善により質の高い授業が展開されている。授業アンケートで「学習への取組」の結果が3.0～3.1であり生徒自身の取組状況を改善する。 ■改善策 ・シラバスの改編を行い、より計画的・自主的な学習とともにも主体的な学びをさらに推進する。 ・読書活動をさらに推進する。
		2 進路指導の一層の充実を図る。	①高い進路希望を設定させ、三年間を見通した進路指導を展開する。 ②教職員研修会、保護者向け勉強会、生徒への説明会等を実施する。 ③高大接続改革に係る新大学入試対応への研究を進める。	①国公立大学100名以上、難関私立大学・医学部計80名以上の現役合格者をだせたか。 ②研修会を計画とおりに実施できたか。また、保護者向け勉強会の参加者が昨年度より増加したか。 ③新大学入試対応への研究がすすめられたか。	■進路指導の一層の充実が実現。 ①国公立大学、難関私立大学合格者は昨年度同様の実績となる見込みである。(12月末) ②進路研修会、保護者向け勉強会は計画どおり実施したが、勉強会参加者数は減少した。 ③新大学入試対応は、新たな委員会を設置した。研究内容について全職員で情報を共有した。	A	■次年度への課題 ・進路校としての進路指導組織として確立されている。今後も、ワンランク上を目指す進路意識の啓発を行う。 ・新大学入試について職員の間で知識が深まった。引き続き新大学入試に向けた具体的な対応を行う。 ■改善策 ・保護者と連携し、今後も国公立大学、難関私立大学・医学部を目指し進路意識の啓発を継続する。
		3 第3期SSH事業や県指定の事業等を学校全体で有効に活用する。	①出張講義、サイエンス教室、発表会・研究室体験、国際交流、課題研究等のSSH行事を効果的に行う。 ②「骨太のリーダー育成のための埼玉版リベラルアーツ事業」等の事業を有効に活用する。	①SSH事業を実施し、参加生徒の感想やアンケート結果等で肯定的な意見が8割を超えたか。 ②県が実施する事業に生徒が積極的に参加し、広く学ぶことができたか。	■SSH事業、県指定の事業について学校全体での有効活用が実現。 ①SSH事業については、実施後のアンケートで肯定的な意見が9割を超えた。 ②グローバルリーダー育成塾など県が実施した事業では、定員を超える希望者数になるなど、積極的な参加が見られた。	A	■次年度への課題 ・SSH事業、県指定事業を効果的に活用し、さらに多くの生徒が参加できるように、今後も学校全体で事業を推進実施する。 ■改善策 ・SSH事業、県指定事業内容について、生徒・教職員に情報提供を行う。
2	■現状 ・多くの生徒が多様な活動に自主的かつ積極的に取り組み、充実した高校生活を送っている。 ・教育相談体制が整っている。 ■課題 ・「人格の陶冶」を目指し、学校行事のさらなる充実や積極的に外部指導者を活用した講義・講演を継続して行う必要がある。 ・SNSに関するトラブルを未然に防ぐ必要がある。	1 教科外活動の充実を図る。	①外部指導者を活用した講義・講演を行い、自主・自律の精神を養い、人間的成長を促す。 ②部活動の充実を図る一方、短時間で充実した濃い活動を工夫する。 ③学校行事・生徒会活動・LHRをさらに充実・活性化させる。	①講義・講演が計画のとおり実施できたか。また、生徒の感想やアンケート結果等で肯定的な意見が8割を超えたか。 ②生徒への助言、支援、安全への配慮等、指導が適正であったか。 ③生徒会、実行委員会との連絡が十分にかつ機能的に実行できたか。	■出張講義、部活動、学校行事、生徒会活動などの教科外活動の充実が実現。 ①出張講義など外部講師による講演では、ほぼ全生徒が肯定的であった。 ②全国大会、関東大会に出場、出品や教育長賞、科学技術政策担当大臣賞を受賞するなど成果を上げた。 ③学校行事・生徒会活動・LHRについては、充実した活動ができた。特に文化祭の来校者数は過去最高であった。	A	■次年度への課題 ・将来、世界で活躍するリーダーを育成する。 ・部活動の充実を図る一方、休養日、学習時間を確保する。 ■改善策 ・外部指導者の活用や海外プログラムへの参加を積極的に進める。 ・土日の部活動は原則平日を徹底するとともに短時間で充実した活動を行う。
		2 生徒指導を組織的に推進し、職員の共通理解に基づく具体的な指導を行う。	①分掌、学年間の連携を高め、効果的な生徒指導を行う。 ②教育相談連絡会議を定期的に実施するなど、教育相談の充実を図る。	①生活委員会・保健委員会等の活動を充実させることができたか。 ②専門機関と連携し、教育相談の利用が十分に図られたか。	■組織的な生徒指導により、職員の共通理解による具体的な指導が実現。 ①年間計画どおり実施できた。 ②学校カウンセラー(年間18回)の訪問だけでなく教育事務所のカウンセラー、ソーシャルワーカーと連携して適切に対応することができた。	A	■次年度への課題 ・課題のある生徒への支援を適切に行う。 ■改善策 ・引き続き、保護者、学校、外部専門機関と連携し、適切な生徒支援を行う。
3	■現状 小学校、中学校、大学等と積極的な連携を図りながら、特色ある教育活動を積極的に広報している。 ■課題 地域とのつながりを重視し、歴史と伝統、そして進学実績など川女の良さ、特色ある取組をより幅広く情報発信する必要がある。	1 学校自己評価システムを活用し、本校の教育活動を、組織的、積極的に広報・公開する。	①ホームページの内容の一層の充実と逐次更新により、積極的に学校情報を発信する。 ②授業公開、効果的な学校説明会を企画・運営する。 ③小中学校や地域との交流・連携を行い、地域に貢献する。	①ホームページの内容の更新が週2回以上できたか。 ②授業公開、学校説明会への参加者数が昨年度以上になったか。 ③小中学校支援、地域の行事への参加ができたか。	■本校の教育活動の組織的、積極的な広報、公開が実現。 ①ホームページについては、ほぼ週2回の更新ができた。また、スマートフォン向けホームページの試行を開始した。 ②授業公開、学校説明会への参加者数については、概ね昨年と同程度であった。 ③市内の小中学校の児童生徒への学習支援、科学クラブ支援や部活動等が地域イベントへ参加することにより地域への貢献ができた。	A	■次年度への課題 ・川女の良さをさらに情報発信する。 ・地域への貢献を継続する。 ■改善策 ・今後もホームページの更新、特に部活動のページの更新を積極的に行う。 ・市内の小中学校への科学支援、学習支援を継続して行う。

学校関係者からの意見・要望・評価等

重点目標1の評価項目について、達成度の評価は適切である。
 ■教員がお互いの授業を見学し合ったり、他校や大学、予備校に研修に行ったりするなど教員が学ぶ姿勢を持っていることが素晴らしい。
 ■ベテランの教員を見て学ぶ若い教員が多い。若手教員が自ら成長しようとしていることが感じられる。
 ■スクールカウンセラーによる教育相談により、生徒支援に努めていることは、大変良い取組である。
 ■週休日などに学習室を開放し、生徒がいつでも自学自習できる学習環境にも力を入れていることは素晴らしい。

重点目標2の評価項目について、達成度の評価は適切である。
 ■スクールカウンセラーによるカウンセリングの取組など課題を抱えた生徒への具体的な支援が見えてくるとよい。

重点目標3の評価項目について、達成度の評価は適切である。
 ■小中学校への学習支援や科学クラブ支援などの取組は小中学校の児童生徒にとってとても役立つ取組になっている。

